

離村農家の保有森林について

佐賀県林業試験場 山 田 宏

はじめに

調査山村として伊万里市波多津村をえらび、当地区から最近10年間に挙家離村した農家28戸全部について実態調査をした。この調査報告は離村農家はどのような農家であったか、その保有森林はどのようなものであったか、離村に際して保有森林をどのように取扱ったかについてである。

1. 調査山村の概況

伊万里市波多津村は佐賀県の西部、伊万里市の北部に位置し、林野率59%、農家率66%の丘陵性の農山村で、昭和35年から45年の10年間に人口は80%に減少している。

2. 離村農家はどのような農家であったか

28戸の離村農家のなかには、戦中、戦後の混乱期に戦災、引揚げ等の理由で村に入り、今回離村したものが8戸あった。

離村先は唐津市、福岡県、大阪、東京附近に集中する傾向がみられる。

離村の動機は、就職21戸、子の世話になるため、7



図一 調査山村の位置

戸であった。

主業は農業8戸、その他13戸、これは建設業3戸、製造業2戸、運送業2戸、鉱業2戸、日やとい労務4戸、とくにないもの7戸であった。

経営耕地規模は表一の当地区農家全体と対比してもわかるように、およそ零細な階層に属するものであった。

表一 調査山村の概況

林野率	農家率	昭和35~45年残存人口率	経営耕地規模別農家数									保有森林規模別林家数					
			計	~0.1ha	0.1~0.3	0.3~0.5	0.5~0.7	0.7~1.0	1.0~1.5	1.5~	計	0.1~1.0ha	1.0~5.0	5.0~10.0	10.0~20.0	20.0~30.0	
% 59	% 66	% 80	戸 519	43	60	41	37	81	133	124	戸 501	219	267	12	1	2	

林家の保有森林				林家の1戸平均保有森林面積	人工林がある林家数					齢級構成別人工林のある林家数			
計	人工林	天然林	人工林率		計	~10%	11~20	21~60	61~	計	10年以下が最も多い林家数	11年~30年が最も多い林家数	31年以上が最も多い林家数
ha 738	440	298	% 60	ha 1.47	戸 281	1	4	105	171	戸 281	221	60	—

3. 離村農家の保有森林はどのようなものであったか、

規模は最小0.02ha、最大2.54ha、平均0.62haで、表一の当地区林家全体と対比してもわかるとおり、

およそ零細な階層に属する。

人工林率は零の放置型が11戸、20%未満層の未成熟型が4戸、21~60%層の林転途上型5戸、61%以上層の成熟型8戸で、変化に富んでいた。平均値で離村農家と当地区林家全体を対比すると、41%と60%で低か

った。

次節で詳説するが、離村に際する保有森林の取扱いは、人工林率で大きく変る。

人工林の齡級は10年未満の要手入齡級と10~30年の壯齡林のりて、31年以上の利用齡級はなかった。

表—2 離村農家の概要

離村農家	種別		離村先					動機		主業		経営耕地規模別戸数					
	もとの かたの 住者	戦中 戦後 入村 者	唐津市	福岡県	大阪 附近	東京 附近	その他	就 職	子の 世話 のため	農 業	その他	~ 0.1ha	0.1~ 0.3	0.3~ 0.5	0.5~ 0.7	0.7~ 1.0	1.0~ 1.5
戸 28	20	8	4	7	3	5	9	21	7	8	13	2	10	5	5	4	2

4 離村に際しての保有森林の取扱い

売却、売却一部委託、委託、通勤、放置等に分かれるが、資却の傾向がつかなく、取扱いは人工林率と関係が深かった。

売却は戸数15戸で最も多く、人工林率は零が9戸もあって低いものが多く、人工林の齡級は10年未満の要手入林が主体であった。

売却一部委託は戸数6戸、規模は零細ななかでも大なるものが多く、人工林率は61%以上の成熟型が4戸もあって高く、人工林の齡級は要手入齡級よりも壯齡級がやや多かった。売却と委託の内訳を見ると、人工林は約半分それも比較的齡級の低いものを売却し、比較的齡級の高い半分为委託し、天然林は殆んど売却していた。

委託は戸数3戸、規模は零細ななかでも小さく、人工林率は高く、うち2戸は成熟型、人工林の齡級は要手入齡級よりも壯齡級の方が多かった。

通勤は戸数2戸、規模は零細ななかでも大きく、人工林率は2戸とも100%の完全成熟型、人工林の齡級は要手入齡級よりも壯齡級が多く、離村先は市内と下関市であった。放置は戸数2戸、規模は零細ななかでも零細、人工林は2戸ともなかった。

離村農家の離村に際しての保有森林の取扱いは、天然林は売却され、人工林は委託される傾向にあり、人工林率が100%の場合、通勤となり、零の場合放置となっていた。

表—3 離村農家の保有森林

保有森林の取扱い		計	売却	売却一部委託	(売却)	(委託)	委託	通勤	放置	
規模別戸数	計	28戸	15	6	6	6	3	2	2	
	0.02ha ~ 0.10ha	4	1	—	1	1	1	—	2	
	0.10 ~ 0.30	4	2	1	1	2	1	—	—	
	0.30 ~ 0.50	7	5	1	2	1	1	—	—	
	0.50 ~ 1.00	5	4	—	—	1	—	1	—	
1.00 ~ 2.54	8	3	4	2	1	—	1	—		
人工林率別戸数	計	28戸	15	6	6	6	3	2	2	
	0 ~ 20%	11	9	—	—	—	—	—	2	
	21 ~ 60%	4	3	1	1	—	—	—	—	
林種別齡級別保有森林面積	計	17.39ha	8.91	5.93	3.63	2.30	0.66	1.83	0.06	
	人工林	小計	7.20	1.10	3.71	1.91	1.80	0.56	1.83	—
		~10年	3.04	0.90	1.66	1.06	0.60	0.08	0.40	—
		10年~20年	2.93	0.10	1.52	0.82	0.70	0.28	1.03	—
	20~30年	1.23	0.10	0.53	0.03	0.50	0.20	0.40	—	
天然林等	小計	10.19	7.81	2.22	1.72	0.50	0.10	—	0.06	
	~10年	2.71	2.57	—	—	—	0.10	—	0.04	
	10年~20年	3.71	2.03	1.66	1.66	—	—	—	0.02	
20~30年	3.97	3.21	0.56	0.06	0.50	—	—	—		
平均人工林率		41%	12	63			85	100	0	
平均保有森林面積		0.62ha	0.54	0.99			0.22	0.92	0.03	

むすび

① 離村農家は戦中、戦後の混乱期に入った人もあり、広範囲にわたって離村していた。離村の動機は就職が主体であったが、子の世話になるためのものもあった。主業は雑多な職種が多く、主業をもたない人もあった。経営耕地規模は零細なものが多かった。

② 離村農家の保有森林は、零細規模で、人工林率は変化に富みながらも低く、人工林の齡級は利用齡級がなかった。

③ 離村に際しての保有森林の取扱いは、天然林は売却され、人工林は委託される傾向にあり、人工林率100%の場合は通勤、零の場合は放置となっていた。